

いつもお世話になっております。

三和総合印刷のメルマガ担当より弊社の新商品などの最新情報のほか、販促に役立つ情報などをメールマガジンにてお届けします。

---

生分解性プラスチックの誤解。

バイオマスプラスチックだから生分解されるわけじゃないんです。



今まで普通に使ってきたものが、知らず知らずのうちに海に流れ込み、小さな小さなプラスチック片となって生体に悪影響を与えているかもしれないと知り、驚きというか困惑しているのは私だけではないと思います。

「マイクロプラスチック問題」の恐怖は本当なのでしょうか？

5ミリメートル以下の小さなプラスチック片が海洋に滞留するほか、より小さなナノレベルのプラスチックが大気中にも飛散し、生体への影響が懸念されています。ナノレベルともなれば、肉眼では見えにくいぐらいの大きさなので、回収なんてとても不可能です。

そこで、マイクロプラスチック問題を解決する切り札として期待されているのが「生分解性プラスチック」。

たとえポイ捨てされても、微生物によって水と二酸化炭素に分解され、自然に還るといった夢のようなプラスチックです。

世の中のプラスチックが、生分解性プラスチックに置き換わっていけば、マイクロプラスチック問題はいずれ解決されると考えてしまいがちですが、実は正しく理解しておかないと逆に環境に悪影響を与えてしまうらしいのです。

調べてみると、そこには環境負荷を軽減する素材として注目される「バイオマスプラスチック」が関係していました。

そこで本稿では「生分解性プラスチック」に対する誤解から生じるリスクと、気を付けるべきポイントについてお伝えしたいと思います。